

AKAI
professional

MPC
MUSIC PRODUCTION CENTER
2500

日 本 語 版

▶ **使用説明書**
v1.21追補版

MPC2500をお使いいただき、ありがとうございます。

この追補マニュアルはAKAI professional MPC2500のオペレーティングシステム「バージョン1.21」バージョンアップに伴い、幾つかの追加された機能、改善及び修正された内容などについて記述してあります。製品付属の使用説明書とあわせてご覧いただく事をおすすめいたします。

目次

Version 1.2で追加された仕様	1
同期に関する機能の追加 (MTC, MMC)	2
MIDI Time Code (MIDIタイムコード/MTC)	2
・タイムコードディスプレイの表示	2
MPC2500をMTCの「スレーブ」として他の機器に同期させる	3
MPC2500をMTCの「マスター」にして他の機器を同期させる	3
MIDI Machine Control (MIDIマシンコントロール/MMC)	4
接続したデバイスにMMCを送信する	4
接続したデバイスからMMCを受信する	5
オート・クロマチックアサイン機能	6
グリッド・エディットの新機能 (ビューモードの追加)	7
8パッド表示モード	7
・タイミングコレクト (グリッドの細かさ) の変更	7
・表示トラックの変更	8
・8パッド表示画面でのエディット	8
ALLパッド (16パッド) 表示モード	8
・タイミングコレクト (グリッドの細かさ) の変更	8
・表示トラックの変更	9
・ALLパッド(16パッド)表示画面でのエディット	9
タイミングコレクト機能への機能追加	10

Version 1.10で追加された仕様 11

オーディオCDを作成する 12

 オーディオCD作成の流れ 12

 1.素材 (WAVファイル) の準備 12

 ・ MPC2500内で作成したSequenceやSongをWAVファイルにする 12

 ・ パソコンからUSB経由で保存されたWAVファイルを使う 12

 2.オーディオトラックの書き込み 13

 3.クローズ・セッション (CLOSE SESSION) 14

 CD-RWのイレース 15

トラック・ミュート機能 (TRACK MUTE) 16

 Track Mute Group (トラック・ミュート・グループ) 16

 Track Mute イベントの記録 16

 Mute Stop機能 17

USB接続時の操作性の向上 18

 コンピューターからのアクセス先のデバイスを変更する 18

MPC2000XLとのファイル互換 19

 ".ALL"ファイルと".APS"ファイルのサポート 19

 2000XL(MCD)のロングファイルネームのサポート 19

Version 1.21で追加された仕様

<<追加機能>>

■同期に関する機能の追加（MTC, MMCでの同期）

MPC2500 Version 1.21より、MIDIクロック以外の同期方法として「MIDI Time Code（MIDIタイムコード／MTC）」と「MIDI Machine Control（MIDIマシンコントロール／MMC）」が使用できるようになりました。

■オート・クロマチック・アサイン機能

MPC2000XLにも搭載していた機能の一つです。この機能を使うと一つのサンプル（パッドにアサインしたサンプル）を半音階になるように自動的にアサインする機能です。ベースやピアノなどのサンプルをパッドで演奏したいときに役立つでしょう。

■グリッドエディットのビューモードを追加

グリッドエディットの画面表示を現在の「3パッド」表示に加えて、新たに「8パッド表示モード」と「ALL（16パッド）表示モード」が追加されました。

■タイミングコレクト機能への追加要素

タイミングコレクト（Timing Correct）機能へ設定した量に対して前後にずらす事の出来るパラメーターを追加しました。この機能もMPC2000XLに搭載されていたものです。

<<主な修正点>>

- ・ 「Save Entire Memory」でセーブする際に「Replace same file」フィールドのデフォルトが「NO」になっているのを「YES」に変更しました。
- ・ パッドを叩いたり押しこんだ時に、まれに[TAP TEMPO]が働いてしまう現象を回避しました。

同期に関する機能の追加 (MTC, MMC)

MIDI Time Code (MIDIタイムコード/MTC)

MIDI Clockによる同期項目に、新たに「MIDI TIME CODE (MTC/MIDIタイムコード)」を追加しました。

MIDIタイムコードはハードディスクレコーダーやビデオカメラ、テープベースのレコーダー等と同期する際に用いる標準的な同期手段です。

MIDIタイムコードは「時間(Hour)：分(Minutes)：秒(Seconds)：フレーム(Frames)」といったロケーション情報を持っていますが、MIDIクロックと違い「テンポ情報」は持ち合わせていません。

MPC2500 version 1.2xで扱うMTCは以下のフレームレイトをサポートします。

タイムコードの種類	ディスプレイ表示
24 Frames/sec	Frame rate : 24
25 Frames/sec	Frame rate : 25
30 Frames/sec	Frame rate : 30
30 Drop Frames/sec (29.97 Frames/sec)	Frame rate : 30D

[NOTE]

MIDIタイムコードは多くの異なったデバイス同士を同期させる事が出来ますが、そのデバイスすべてを同じ時間で「正確」にロックさせる為に、多くの場合「チェイスさせる為の時間 (簡単に言うと同期信号に接続機器が正確にロックするまでの時間)」を必要とします。

MPC2500でMTCを使って正確な同期をさせる為には、少なくともSONG開始 (演奏開始) 前にダミーでバンクの1小節をあらかじめ用意しておくことをお勧めします。

多くのハードディスクレコーダーは一般的に数秒ほどのチェイスタイムを必要とします。このチェイスタイムの設定に関しては、接続させるマスター機器の取り扱い説明書をご覧ください。

・タイムコード・ディスプレイの表示

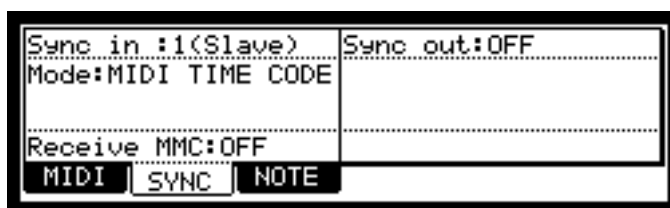
MPC2500のディスプレイに「時(hour)：分(minutes)：秒(seconds)：フレーム(frame)」を表示させる事が出来ます。メイン画面上で、カーソルキーでNOWフィールドに移動します。[DATA]ホイールを回すと以下の様な画面になります。



■MPC2500をMTCの「スレーブ」として他の機器に同期させる

MTCを使って他の機器に同期させるには以下の様にします。

- (1) マスターになる機器のMIDI OUT端子とMPC2500のMIDI IN端子(1、2のいずれか)を接続します。
- (2) マスター機器側がMIDIタイムコードを送信可能かを確認してください。
- (3) [MODE]キーを押して[PAD 9](MIDI/Sync)を押してください。
Syncページが表示されます。
- (4) Sync inフィールドでマスター機器と接続してある方のMIDI IN端子を選択してください。
- (5) Modeフィールドで「MIDI TIME CODE」を選択してください。

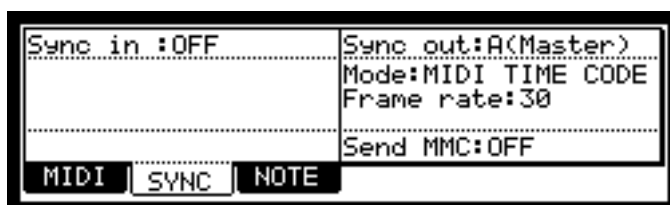


MPC2500がMIDIタイムコードを受信すると、自動的にフレームレートを検出し、マスター機器との同期を開始します。

■MPC2500をMTCの「マスター」にして他の機器を同期させる

MTCで他の機器を同期させるには以下の様にします。

- (1) スレーブになる機器のMIDI IN端子とMPC2500のMIDI OUT端子(A~Dのいずれか)を接続します。
- (2) スレーブ機器がMIDIタイムコードを受信可能な状態かを確認してください。
- (3) [MODE]キーを押して[PAD 9](MIDI/Sync)を押してください。
Syncページが表示されます。
- (4) Sync outフィールドでスレーブ機器と接続してある方のMIDI OUT端子を選択してください。
- (5) Modeフィールドで「MIDI TIME CODE」を選択してください。



- (6) Frame Rateフィールドで同期に使用したいフレームレートを選択してください。
スレーブ機器との同期に使用する適切なフレームレートなどの情報に関しては、スレーブ機器側の取扱説明書を参考にしてください。

MIDI Machine Control (MIDIマシン・コントロール／MMC)

MPC2500はMIDIマシン・コントロール (MMC) を送信または受信可能です。MIDIマシンコントロールはトランスポートコントロールの為に標準的なプロトコルです。

MPC2500は以下の情報を送信または受信可能です。

Send(送信)

MPC Control	MMC Command sent
Play	MMC Deferred Play
Play Start	MMC Locate Zero, followed by Deferred Play
Stop	MMC Stop
<> Step, <<Bar>>	MMC Locate

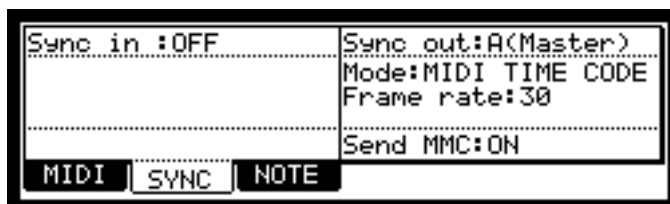
Receive (受信)

MMC Command sent	MPC equivalent
MMC Deferred Play	Play
MMC Locate Zero, Deferred Play	Play Start
MMC Stop	Stop
MMC Locate	Locate
MMC Record Strobe	Record
MMC Pause	Stop

■接続したデバイスにMMCを送信する

MPC2500からMIDIマシンコントロールを送信して、コンピューターのDAWなどをコントロールするには以下の様にします。

- (1) MPC2500のMIDI OUT A端子と接続機器のMIDI IN端子を接続します。
- (2) [MODE]キーを押して[PAD 9](MIDI/Sync)を押してください。
Syncページが表示されます。
- (3) [F2](SYNC)キーを押してください。
- (4) Sync outフィールドを「A (Master)」の表示にします。
- (5) Send MMCフィールドを「ON」にします。

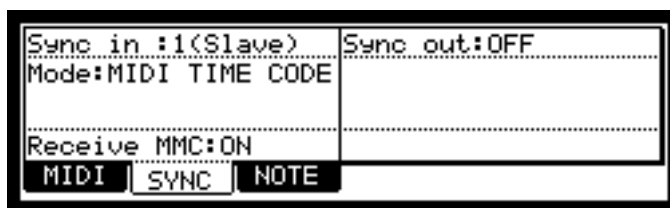


- (6) 接続した機器側 (スレーブ機器側) がMMCを受信できるよう、設定してください。
設定方法は接続機器側の取扱説明書に従ってください。
- (7) MPC2500の[PLAY]キーを押してみてください。
MPC2500に接続された側の機器もスタートしているはずですが。

■接続したデバイスからMMCを受信する

コンピューターのDAWなどからMIDIマシンコントロールを送信して、MPC2500をコントロールするには以下の様にします。

- (1) MPC2500のMIDI IN 1端子と接続機器のMIDI OUT端子を接続します。
- (2) [MODE]キーを押して[PAD 9](MIDI/Sync)を押してください。
Syncページが表示されます。
- (3) [F2](SYNC)キーを押してください。
- (4) Sync inフィールドを「1 (Slave)」の表示にします。



- (5) Receive MMCフィールドを「ON」にします。
- (6) 接続した機器側（マスター機器側）がMMCを送信できる状態になるよう、設定してください。
設定方法は接続機器側の取扱説明書に従ってください。
- (7) マスター側の機器をPLAYにしてみてください。
接続されたマスター機器と一緒にMPC2500もスタートしているはずですが。

【ヒント】

MIDIマシンコントロール（MMC）はトランスポート・コントロール（start, stopなど）の情報のみを含んでいます。同期する際に最適な結果を求めたい場合は、他の同期プロトコルである「MIDI TIME CODE（MIDIタイムコード/MTC）」や「MIDI Clock(MIDIクロック）」などと一緒に使ったほうが良いでしょう。

オート・クロマチック・アサイン機能

この機能は一つのサウンドを半音階になるようにドラムパッドへ自動的にアサインする機能です。ベースやピアノのサンプルをパッドで演奏したい時などに役立つでしょう。64個のドラムパッド（A01～D16）はMIDIキーボード上のMIDIノートナンバー「35～98」に該当します。

サンプルを半音単位でアサインするには以下の様な手順で行います。

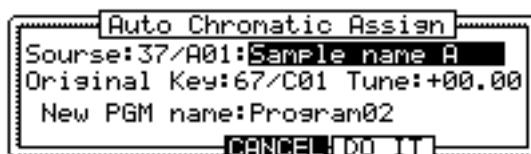
- (1) [MODE]キーを押して [PAD 7](Program)を押してください。
- (2) [F1](SAMPLE)キーを押してください。
- (3) 半音単位でアサインしたいサンプルのあるパッドを選択します。
- (4) Tuneの項目にカーソルを移動し、[WINDOW]キーを押してください。

以下の画面が表示されます。



- (5) [F5](AUTO) を押してください。

Auto Chromatic Assignウィンドウが表示されます。



- (6) SourceフィールドでアサインしたいサウンドとMIDIノートナンバーを選択してください。

DATAホイールを回して選択するか、パッドを叩いて直接選び、フィールドにサンプルの名前を表示させる事も出来ます。

[ヒント] ここで選択されたサウンドのパラメーターは各音程（各パッド）にコピーされます。

- (7) Original keyフィールドで選択したサウンドを、オリジナルピッチで再生するノート（ドラムパッド）をパッドまたは[DATA]ホイールで選択します。

Tuneフィールドではオリジナルキーに対してのピッチのオフセットが可能です。

この設定は各パッド（各ノート）にも反映されます。

- (8) New PGM nameフィールドで、新規に作成されるクロマチック・プログラムの名前をつける事が出来ます。
- (9) [DO IT]を押すと作成を開始します。

グリッド・エディットの新機能

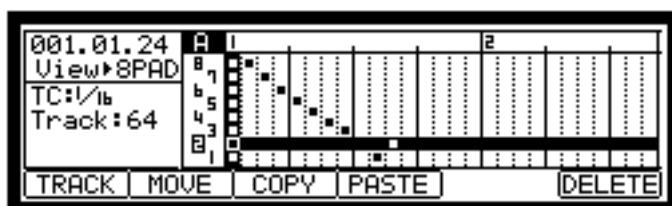
グリッド・エディットの画面表示において、従来は同時に表示出来るパッドは3つまででしたが、VERSION 1.21からは「8個」もしくは「16個」のパッドを表示させるモードが追加されました。

■8パッド表示モード

- (1) [MODE]キーを押して [PAD 15](GRID EDIT)を押してください。

グリッド・エディットモードの画面が表示されます。

- (2) Viewフィールドにカーソルを移動し、[DATA]ホイールを回して「8PAD」を選択してください。



押したパッドによって画面に表示されるPADのグループ（1～8, 9～16）を切り替えて表示させる事が出来ます。例えば [PAD 5]を叩いたときは、「PAD 1～8」、[PAD15]を叩いたときは、「PAD 9～16」のグループを画面に表示させます。

・ タイミングコレクト(グリッドの細かさ)の変更

タイミングコレクトを素早く変えるには、[NOTE REPEAT]キーを使うと便利です。

- (1) [NOTE REPEAT]キーを押したままにします。

画面下の（ファンクションキーの上部に該当する）部分が以下ようになります。

- (2) [F1]～[F6]の該当するキーを押します。

それぞれの数値はタイミングコレクトの細かさ（音符）です。画面下に該当する[F1]～[F6]のファンクションキーを押して選択してください。

[NOTE REPEAT]キーを押したままで、次々とファンクションキーを押してタイミングコレクトを切り替える事が出来ます。

もう一つの方法としては「TC:」フィールドにカーソルを移動し、[WINDOW]キーを押すと

「Timing Correct Window」が表示されます。このウィンドウ内での数値を変更してタイミングコレクトを変更する事も出来ます。

・ 表示トラックの変更

表示させるトラックを変更するには、2つの方法があります。

ひとつは、画面内左中央にのTrack: フィールドにカーソルを移動し、[DATA]ホイールを回して切り替える方法です。もうひとつは、[F 1](TRACK)キーを押したまま、[DATA]ホイールを回して切り替える方法があります。

[ヒント] トラックネームをあらかじめつけておくと、エディットの際に大変便利です。このモードにおいて、[F 1] (TRACK)キーを押しているあいだは、トラックのナンバーとともにトラックネームがウィンドウとして表示されます（例えば「Tr10: SineWave KIK」といったふうに）。[F 1]キーを押している間、現在自分が作業しているトラックが何のパートなのかを[F 1]キーを押す事で確認しながらエディットする事が可能になります。

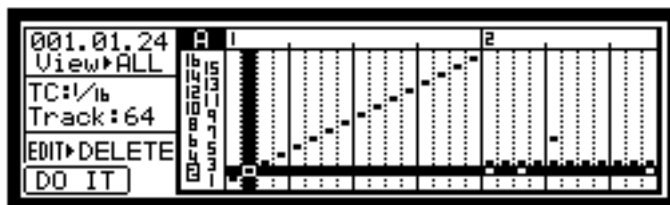
・ 8パッド表示画面でのエディット

8パッド表示モードでのエディットは、これまでの3パッド表示の時とボタンの位置、内容共に同じです。詳しくは、MPC2500使用説明書P.40「グリッドモードでのエディット」を参照ください。

■ ALLパッド（16パッド）表示モード

(1) [MODE]キーを押して [PAD 15](GRID EDIT)を押してください。

グリッド・エディットモードの画面が表示されます。



(2) Viewフィールドにカーソルを移動し、[DATA]ホイールを回して「ALL」を選択してください。

・ タイミングコレクト(グリッドの細かさ)の変更

タイミングコレクトを変更するには、TC: フィールドにカーソルを移動し、[DATA]ホイールを回して数値を変更する方法と、TC: フィールドにカーソルを移動し、[WINDOW]キーを押すと「Timing Correct Window」が表示されますので、ウィンドウ内の「Note Value:」フィールドで数値を変更してタイミングコレクトを変更する方法があります。

注意! 8パッド表示モードでは[NOTE REPEAT]キーと[F 1]~[F 6]のファンクション・キーを使う事により、瞬時にタイミングコレクトを切り替える事が出来ましたが、ALLパッド（16パッド）表示モードではこのショートカットを使う事が出来ません。

• 表示トラックの変更

表示させるトラックを変更するには、画面内左中央にのTrack: フィールドにカーソルを移動し、[DATA]ホイールを回して切り替えます。ALLパッド(16PAD)表示モードでのトラック切り替えはこの方法だけになります。

• ALLパッド（16パッド）表示画面でのエディット

16パッド表示モードでのエディットは、これまでの3パッド、8パッド表示の時とエディットの内容は同じですが、若干操作の方法が異なります。

エディットするには「EDIT:」フィールドにカーソルを移動し、[DATA]ホイールを回して「DELETE」「COPY」「MOVE」「PASTE」のいずれかを選択します。これまでの3パッド、8パッド表示の時とエディットの内容は同じですが、若干操作の方法が異なります。

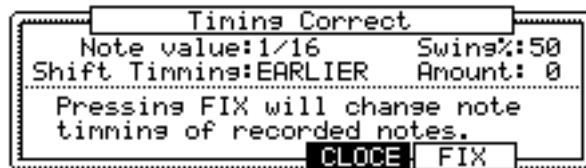
(1) カーソルを「EDIT:」フィールドに移動します。

(2) [DATA]ホイールを回してエディットしたい項目を選択してください。

グリッド・エディットモードで選択できる項目は他のモード同様に「DELETE」「COPY」「MOVE」「PASTE」の4つです。各エディットの内容等に関しては、MPC2500使用説明書P.40「グリッドモードでのエディット」を参照ください。

タイミング・コレクトの機能追加

Timing Correctページで「Shift Timing (シフトタイミング)」と「Amount (アmount)」のパラメータが使用できるようになりました。



AMOUNT

Amountは「Shift Timing」の量を決定します。ここで設定できる最大値は「Note Value」の設定によって変わります。例えば、「Note Value」が「1/16」に設定されている場合は、タイミング修正される値 (24 tick) の半分の12が最大になります。

SHIFT TIMING

ノートイベントをAmountフィールドで設定した値の分だけ前後にすらし (シフト) ます。

EARLIER	前にシフトします。
LATER	後ろにシフトします。

詳細については使用説明書 P.15 「タイミング修正 (タイミング・コレクト機能)」をご参照ください。

Version 1.10 で追加された仕様

<<追加機能>>

■Audio CD Writing機能

内蔵CDドライブ「CD-M25（オプション）」を使ってMPC2500本体のみでオーディオCDを作成することが出来ます。

■Track Mute Group機能

Track Muteモードで各トラックのMuteをグループ化する事が出来ます。

■Mute Stop機能

Track Muteモードで再生中のワンショットサンプルをMuteした際と、Stopボタンを押したときの反応の仕方を設定する事が出来ます。

■Record Track Mute Event機能の追加

Track Muteモードで行ったパッドのMute情報を、Track Muteイベントとしてシーケンスに記録することができます。

■MPC2000XLとのファイル互換の向上

MPC2000XLで作成したAll Sequence & Song、All Program & Soundsの読み込みができるようになりました。また、MPC2000XL-MCD（マルチドライブ搭載機）で作成された8文字以上のサンプルファイル名を表示することが可能、かつこれによるProgram内のサンプルのアサイン情報をMPC2500で読み込む際にも正確に反映させる事が出来ます。

<<主な修正点>>

- ・シーケンスの精度を向上させました。
- ・Sequenceコピーの際に、新たに作成されたファイルネームの最後尾が数値の場合は連番（その次の数値）になるようにしました。
- ・コピーしたノートイベントがGRIDモード <-> STEPモード間にも反映されるようにしました。
- ・Trimモードでの、サンプルEDITに使用するStポイントEndポイントの仕様変更。
- ・SLIDERモードにおいて、動かしたQ-linkスライダー/ノブの該当するQページへ自動的に切り替わるように仕様を変更。
- ・パラOUTでMono（OUT 1、OUT 3）選択できるように使用を変更。
- ・Folder LOADでの、SEQイベントの読み込みの仕様改善。
- ・LOADモードにおけるファイルのアルファベット順自動ソートされるようになりました。かつサンプルをRAMに読み込む際にもアルファベット順で読み込まれるようになりました。
- ・PCとMPC2500をUSB接続した場合の仕様の改善。
USBページでMOUNT（再認識機能）を追加

オーディオCDを作成する

MPC2500 Version 1.10では、本体の内蔵CDドライブ「CD-M25（オプション）」でオーディオCDを作成する事が可能になりました。オーディオCDの元となる素材は、コンパクトフラッシュ（CFカード）、内蔵ハードディスクドライブに保存された「WAVファイル」を使用して作成できる他に、MPC2500のRAMに読み込み済みの「WAVファイル」から選択してオーディオCDを作成することも出来ます。書き込み対応メディアは「CD-R」及び「CD-RW」です。

■オーディオCD作成の流れ

1. 素材（WAVファイル）の準備

MPC2500でオーディオCDを作る際に、元になるのは「WAV」ファイルです。

WAVファイルはMPC2500内部で録音（サンプリング）した物の他に、コンピューターからUSB経由で、CFカードや内蔵ハードディスクドライブなどに保存されたWAVファイル(16bit/44.1KHz)もオーディオCDの元素材として使用する事が出来ます。WAVファイルの準備が既に出来ている場合は「2. オーディオトラックの書き込み」に進んで下さい。

・MPC2500内で作成したSEQUENCEやSONGをWAVファイルにする

まずは完成したSEQUENCEをMPC2500内部で録音（サンプリング）し、1曲につき1個のWAVファイルとして用意する必要があります。詳しい説明はMPC2500付属の使用説明書57ページ「MAIN OUTの録音」をご覧ください。（SONGの場合は「Convert Song to Seq」でひとつのシーケンスに変換する必要があります。詳しくはMPC2500付属の使用説明書45ページ「ソングをシーケンスにコンバートする」を参照ください。）

SEQUENCEをWAVファイルとして録音する事が出来たら、次はWAVファイルの鳴り始めや終わりの部分がきれいになるようTRIMモードの「St:」フィールドと「End:」フィールドで調整しておきます。サンプルのエディットに関する詳しい説明はMPC2500付属の使用説明書63ページ「サンプルの編集」をご覧ください。

注意！ WAVファイルはその1つのファイル全体の内容がオーディオトラック作成の際の1曲分（オーディオトラック1つ分）として作成される対象になります。TRIMモードで設定した「St:」フィールドと「End:」フィールドの間がライティング対象にはなるわけではありません。

・コンピューターからUSB経由で保存したWAVファイルを使う

コンピューターからUSB経由でCFカードや内蔵ハードディスクドライブに保存されたWAVファイルを使用する事も出来ます。ただしMPC2500のオーディオCDの作成で使用可能なファイルは「16bit/44.1KHz」のWAVファイルですのでご注意ください。

2. オーディオトラックの書き込み

「WAV」ファイルの準備ができれば、次はメディア（CD-R/CD-RW）に書き込む作業に入ります。

- (1) MODEキーを押し[PAD3](SAVE)を押して下さい。

SAVEページが表示されます。

- (2) [F3](UTILIT)を押してUTILITYページへ移動してください。



- (3) Doフィールドにカーソルを移動し「WRITE AUDIO CD」を選択してください。

- (4) ブランクのCD-R/RWメディアをCDドライブにセットしてください。

注意！ 既にデータのあるCD-RWメディアに再び書き込む為には「イレース (ERASE)」というメディアに書き込まれたデータを消去する作業が必要になります。(詳しくは後述の「■CD-RWのイレース (ERASE)」を参照ください。)

- (5) Fromフィールドにカーソルを移動してください。

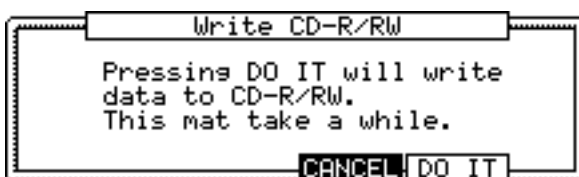


MEMORY CARD	MPC2500本体カードスロットからWAVデータを読み出します。
HARD DISK	内蔵ハードディスクドライブからWAVデータを読み出します。
MEMORY	MPC2500本体内のRAMからWAVデータを読み出します。

- (6) Dataフィールドにカーソルを移動し、WAVファイルを選択してください。

[ヒント] この時に[F5](PLAY)を押すとWAVファイルの内容を聴いて確認することができます。

- (7) [F6](DO IT)を押すと、Write CD-R/RWウィンドウが表示されます。



- (8) [F5](DO IT)を押すと1トラック(1曲)分のデータの書き込みを開始します。

データの書き込み中は画面に「% (パーセント)」で進行状況が表示されます。

注意！ この時点ではまだ1トラック（1曲）分のオーディオトラックをメディアに書き込んだだけで、オーディオCDとしてまだ完全に作成されたわけではありません。オーディオCDとしての完全にするには、この後で説明される「クローズセッション(CLOSE SESSION)」という作業が必要になります。

(9) 複数の曲を一つのオーディオCDに入れたい場合は、(6)～(8)の作業を繰り返し行います。

注意！ 本体内のRAMにあるWAVファイルから作成する場合は、曲時間分の空きメモリーが必要です。

[ヒント]

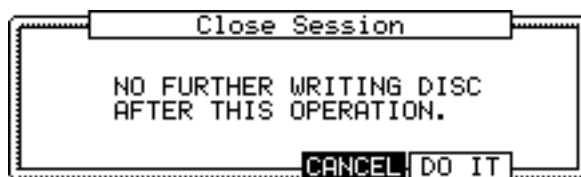
複数のオーディオトラックを作成する場合は、あらかじめ1つのフォルダの中にWAVファイルをまとめておくと効率的に作業が行えます。

3. クローズ・セッション

(1) Doフィールドにカーソルを移動し、「CLOSE SESSION」にしてください。



(2) [F6](DO IT)を押すと、CLOSE SESSIONウィンドウが表示されます。



(3) [F6](DO IT)を押すとクローズ・セッションが実行されます。

画面には「Closing Session...」と表示され、オーディオCD作成の最終作業にはいります。

注意！ 一度「CLOSE SESSION」が実行されると、そのメディアに追記は出来なくなります。

(4) クローズセッションの作業が終了すると自動的にCDがイジェクトされます。

オーディオCD作成の行程はこれで完了です。

■CD-RWのイレース

MPC2500でオーディオCDを作成する際に使用できるメディアは「CD-R」の他に「CD-RW」を使用する事も出来ます。「CD-R」は書き込みが一度だけ（MPC2500においてセッション1回分のみ）しか出来ないのに対して、「CD-RW」は何度でもメディアを消去して再び書き込む事が可能です。ただしCD-RWを使用するには、まずMPC2500で使用する為の準備として「イレース(ERASE)」の作業が必要になります。

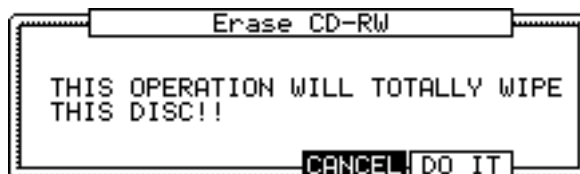
- (1) MODEキーを押し[PAD3](SAVE)を押して下さい。

SAVEページが表示されます。

- (2) [F3](UTILIT)を押してUTILITYページへ移動してください。
- (3) Doフィールドにカーソルを移動し、「ERASE CD-RW」を選択してください。



- (4) [F6](DO IT)を押すと、Erase CD-RWウィンドウが表示されます。



- (5) [F5](DO IT)を押すとCD-RWの消去 (ERASE) 作業が開始されます。

TRACK MUTE

MPC2500 Version 1.10では、Track Muteモードにおけるいくつかの機能が追加されました。

■Track Mute Group (トラックミュート・グループ)

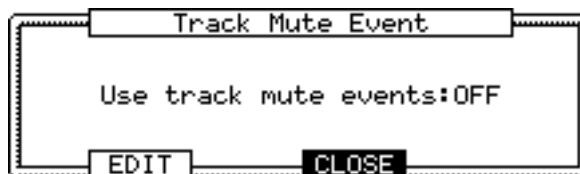
Track Muteモード上で、各パッドのトラックミュートをグループ化する機能が追加されました。今までのTrack MuteはそれぞれひとつずつのPADに対してのミュートON/OFFのみでしたが、これにより1つのPADで複数のPAD (トラック) の演奏もミュートする事が可能になります。Muteグループは16組作成可能です。

Now:001.01.00		Seq:01-Sequence01		
Tr	OFF	OFF	OFF	OFF
01-16	OFF	OFF	OFF	OFF
(Bank	OFF	OFF	OFF	OFF
A	OFF	OFF	OFF	OFF
MUTE	GROUP			SOLO

【ヒント】 SHIFTキーを押しながらグループ対象になっているPADを叩くと「そのPADだけ (グループ処理とは無関係に)」ミュートされます。

■Track Muteイベントの記録

Track muteモード上で、PADを使ったミュート情報をシーケンスに記録 (Track muteイベントとして) することができます。MAINモードのMuteフィールドでWINDOWボタンを押すとTrack Mute eventウィンドウが表示され、ウィンドウ内のUse track mute eventsフィールドでON/OFFを設定します。



Use track mute eventsフィールド:

OFF Track muteイベントを記録しません。

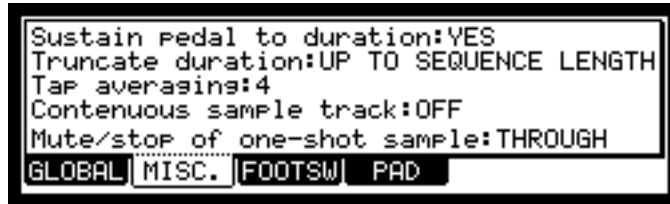
ON Track muteイベントを記録します。

EDIT[F2]を押すとSTEP EDITモードに移動します。

注意: Track muteイベントはMAINモードで設定されているタイミングコレクトが反映されます。

■Mute Stop機能

再生中のOne shotサンプルが、Muteモード上においてミュートした時と、stopボタンを押した時の振る舞いを設定する事が出来ます。OTHERモードの「Mute/stop of one-shot sampleフィールド」で設定します。



THROUGH One shotサンプルを最後まで再生させます。

IMMEDIATE One shotサンプルを最後まで再生させません。

STOPボタン押した時やMUTEを実行した瞬間に発音そのものを止めます。

USB接続時の操作性の向上

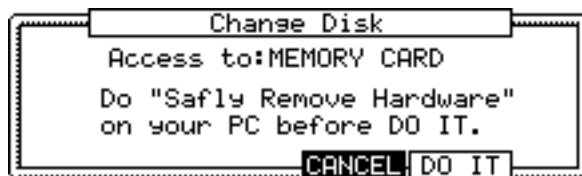
MPC2500 Version 1.10では、コンピューターとUSB接続した際の操作性を向上させました。今まではUSB接続している際にUSBページ以外の他のページ、もしくは他のモードに移動する事が出来ませんでした。Version1.10ではUSB接続中でありながらも（USBケーブルを外す事なく）他のモードやページに自由に移動する事が可能です。

■コンピューターからのアクセス先のデバイスを変更する

- (1) USBページに入り、Access to:フィールドでJOGダイヤルを回します。



- (2) Change Diskウィンドウが表示されます。



※ ハードディスクドライブを内蔵していない場合はChange Diskウィンドウは表示されません。

- (3) Access to:フィールドでコンピューター側からアクセスするMPC2500内のデバイスを選択して下さい。

MEMORY CARD	本体カードスロットのコンパクトフラッシュカードにアクセス。
HARD DISK	本体内蔵ハードディスクドライブにアクセス。

注意！「次のステップに移る前に！」

アクセス先を変更し[F5](DO IT)でマウントさせる前に、Windowsをお使いの場合は「ハードウェアの安全な取り外し」を必ず実行して下さい。Macintoshをお使いの場合は「取り出し（ゴミ箱へドラッグ&ドロップ）」を実行して下さい。

- (4) [F5](DO IT)を押してください。

選択したデバイスに接続先が変更されコンピューター側で認識できる状態になります。選択したデバイスがコンピューター側で自動認識（オートマウント）されない時は、USBページ上の[F6](MOUNT)を押して下さい。

MPC2000XLとのファイル互換

■ ".ALL" ファイルと ".APS" ファイルのサポート

MPC2000XLで作成した".ALL" ファイル(All Sequence & Song)と".APS"ファイル(All Program & sounds)の読み込みが可能になりました。

【ヒント】

読み込む前にあらかじめ「.APS(All Program & Samples)」ファイルと「.ALL(All Sequence & Song)」ファイルを、同じフォルダ内にセーブしておくにより効率的に読み込めるでしょう。

■ 2000XL(MCD)のロングファイル名のサポート

MPC2000XL-MCDで作成された名前が8文字以上(16文字)のサンプルを、MPC2500で正確に表示、及びProgramに対してのアサイン情報も的確に反映させられることが出来ます。

【ヒント】

MPC2000XL-MCDからMPC2500にファイルを読み込ませる際には、データの入ったメディアを（途中コンピューターなどにはマウントさせず）そのままMPC2500で読み込ませて下さい。一度でもコンピューターにマウントさせてしまうと、コンピューター（OS）側のファイルシステムの都合上、2000XL-MCDで作成されたファイル名は変化してしまいます。

【ヒント】

ZIPディスク等にセーブされたファイルを多数お持ちで、これをMPC2500に持っていきたいとお考えの場合は、MPC2000XLに外付けのZIPドライブ（SCSI）を用意し、なおかつ内蔵のZIPもしくはフロッピードライブを「マルチカードドライブ」へ換装し2000XL-MCDと同等にする事が必要になります。

プロ・オーディオ・ジャパン株式会社

〒224-0021 神奈川県横浜市西区花咲町 7-150

ウェインズ&イッセイ 横浜ビル5階

カスタマーサポート

電話：045-326-2046 FAX：045-316-8665

Copyright (c) 2006 Pro Audio Japan K.K. All rights reserved.



WWW.AKAI-PRO.JP

プロ・オーディオ・ジャパン株式会社
〒220-0022 神奈川県横浜市 西区花咲町 7-150
ウェインズ&イッセイ 横浜ビル5階